

地域密着型

特別養護老人ホーム福寿園

完成

「地域密着型」福寿園とは

平成18年から、高齢者が認知症や要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように、介護サービスのひとつとして「地域密着型サービス」が始まりました。地域密着型福寿園の場合、利用は原則として要介護認定を受けた市民に限定され、柔軟なサービスの提供と小規模な施設で顔なじみの職員から介護や看護を受けられる特徴があります。

個室ではなく多床室の理由

地域密着型福寿園は、多床室（4人部屋）となっています。

多床室は、①目の行き届く範囲が広がり、緊急事態などの発見・対応の迅速化が図られる②入所者やその家族との交流が期待される③建設コストおよび維持管理などの経費が軽減される④入所費用が通常の個室より2割から3割程度低く抑えられる、などのメリットが挙げられます。個人のプライバシーが完全に確保できる状態ではなくりますが、地域密着型福寿園では、間仕切りタンスやカーテンなどで仕切られる工夫がなされ、介護支援体制も含め、個人のプライバシーへの配慮が最大限されています。

ふれあいのある快適な生活を

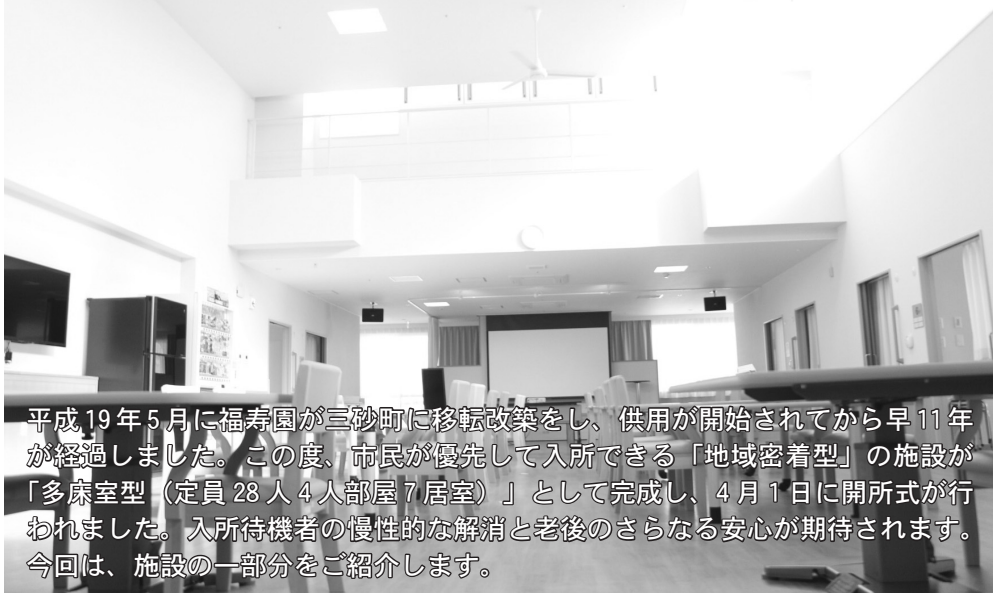


砂川福祉会
小泉 洵 理事長

「地域密着型特別養護老人ホーム福寿園」は、市より市民優先入所施設整備の要請を受け、建設を進めて参りました。市をはじめ、関係者各位のご支援・ご協力のもと、平成30年4月、広域型特別養護老人ホーム福寿園併設のサテライト型として開所を迎えることができました。

地域密着型福寿園は、定員28人4人部屋7居室の多床室型特別養護老人ホームとして、居室はベット間隔に間仕切りタンスを設置し、広いプライベートスペースを設けています。入所者の皆様が集うダイニング、食堂、機能訓練室は天井を高くし、トップライトにより自然の光を取り入れた明るく広々とした環境を整えております。また、職員と入所者同士のふれあいのある快適な生活を安全に、そして安心して過ごしていただけるようさまざまな工夫を凝らしております。

母体施設の広域型特別養護老人ホーム福寿園には、ショートステイおよびデイサービスセンターも併設しており、砂川福祉会既存の介護老人保健施設「みやかわ」、ケアハウス「びんねしり」とともに地域の包括的な介護老人福祉施設として大切な役割を果たして参ります。



平成19年5月に福寿園が三砂町に移転改築をし、供用が開始されてから早11年が経過しました。この度、市民が優先して入所できる「地域密着型」の施設が「多床室型（定員28人4人部屋7居室）」として完成し、4月1日に開所式が行われました。入所待機者の慢性的な解消と老後のさらなる安心が期待されます。今回は、施設の一部をご紹介します。

福寿園の歴史

福寿園は、市が昭和51年に現在の市立病院の場所に開設し、平成2年には、通所介護の施設としてデイサービスセンターを併設しました。その後、建物の老朽化や市立病院の改築計画に伴い、福寿園とデイサービスセンターを砂川駅東部地区に移転することになりました。平成18年には、管理運営を「社会福祉法人砂川福祉会」に移管し、砂川福祉会が建設工費約13億円をかけ、平成19年3月に現在の場所に福寿園が完成し、同年5月より供用を開始しました。また、地域密着型特別養護老人ホーム福寿園（以下地域密着型福寿園）は、建設工費約4億円をかけ、平成30年3月に開設準備が整い、4月より供用を開始しました。

既存の福寿園

既存の福寿園は全室個室で、10居室を1つのグループ（ユニット）として10ユニットを配置した100人が入居することができ、市外からの入居者も受け入れる「広域型」の施設となっています。個室に居ても、入居される方にとって家庭的な雰囲気の中で生活できる環境が整っています。

地域密着型福寿園の特徴

入所者が集まりやすく、施設内が明るく、職員が周囲の見渡しができるように配慮された施設になっています。

① デイルーム・食堂・機能訓練室

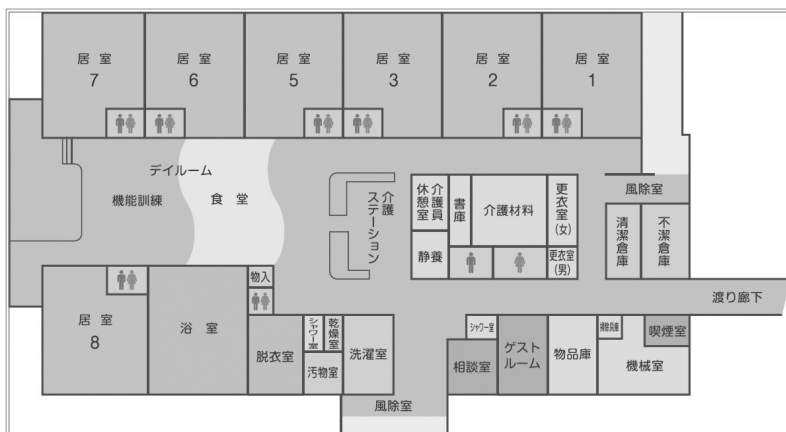
入所者が集うこのスペースは、天井を高くしており、採光のために天窓から自然の光を取り入れ、明るく広々とした造りとなっています。

② 居室

4人の入所者の方が生活するスペースとなっており、間仕切りタンスとカーテンによりプライベート空間を確保する仕組みとなっています。また、ベッドはセンサーで「人が寝ていない」と判断すると通報する仕組みやベッドが起き上がるときに背中の丸みに沿って左右から支え、横にずれるのを防止する転落防止機能が備わっているなどさまざまな工夫が見られます。

③ 浴室

一般浴槽と特別浴槽が混在しています。いすに座ったままのチェア浴も一般浴槽で入浴ができることで、機械浴の孤独感を解消し、まるで温泉入浴のような、入所者同士や介護者との交流にも考慮しています。



家族的な雰囲気と安心に繋がる

入居者のご家族 徳田 豊子 さん

4月から地域密着型福寿園に家族が入所しています。個室になっていると逆に不安になってしまおうようで、ドアを締め切りがちになってしまう傾向があり、多床室だと、人がいて家族的な雰囲気で安心感が出てくるみたいです。職員の方も丁寧で、サービスにも非常に満足しています。



入所者目線で職員も機能的な施設に

介護主任 中山 恵理 さん

地域密着型福寿園は、施設が入所者にとって使いやすいように、職員が設計段階から数多く話し合ってきました。特にベッドなどの備品は、入所者の安全に配慮し何度も試などして現在使っていますが、入所者にとって使いやすいものは介護員にとっても助助しやすく、より良い介護サービスの提供にも繋がります。個室にも多くのメリットはありますが、多床室になったことで入所者同士の交流が出てきて、部屋に籠もらずに出てくる方が多い印象です。職員一同、一日でも早く住み慣れてもらえるように、笑顔で思いやりのある介護を実践していきたいと思ひます。



住み慣れた砂川で

自分らしく生きていく

福寿園は、移転改築して以来、入居者の総計は214人になります。

市においても高齢化率は37%を超え、私たちの誰もが現在・未来において、本人に関わらず家族の誰かが高齢者施設も含めた老後のことを考えなければならぬ時代となってきました。地域密着型福寿園をはじめ、高齢者施設について関心を持つことも、高齢者が元気に、そして自分らしく安心して生活できる大事な要素となります。

市では、今後も砂川福祉会をはじめとした関係機関などと連携し、高齢者の方が安心して自分らしく生活できる政策に取り組んでいきます。



【お問い合わせ】福寿園 011-1000